

派遣先	ベトナム国家大学ハノイ校 (VNU)
派遣期間	2016年2月29日(月)～3月12日(土)
学生ユニット	ユニットS,T,X(計14名)(教育学部9名, 教育学研究科3名, 工学部1名, 理学研究科1名)
実習先高校	(1) The Olympia Schools (Upper and Lower Secondary School) (日本の中学・高校相当) (2) Foreign Language Specialized High School (Upper Secondary School) (日本の高校相当) (3) Le Qui Don School (Lower Secondary Middle School) (日本の中学相当)
滞在先	VNUキャンパス内のゲストハウス (滞在期間全体で VND 1,500,000/室)
引率教員	辻 耕治

主な活動

2月29日(月)

ベトナム・ハノイ(ノイバイ国際空港)到着。出迎えのVNUスタッフ2名とともにVNUキャンパスに移動した。ゲストハウスチェックイン後、VNU学部長のCuong先生と引率教員が明日の予定について簡単に打合せ。その内容を引率教員から派遣学生全員に伝えた後、解散。

3月1日(火)

VNUのスタッフ(学部長のCuong先生はじめ5名)およびツインクルプログラムにより2015年10月に千葉大学で活動した学生たちに歓迎会を開催していただく。歓迎会に引き続き、VNU滞在期間全体の予定について打合せを行った。その後、各ユニットで授業準備を進めた。なお、授業準備・ミーティング用に、我々の滞在期間を通してVNUの部屋を一室手配いただいた。

3月2日(水)

各ユニットで授業準備を進めた。午後、実習校1校(Foreign Language Specialized High School)を視察した。

3月3日(木)

実習校のThe Olympia Schoolsにて、校長臨席の歓迎会を開催していただいた。歓迎会に引

き続き、ユニット T が 1 回目の授業を実施した。Cuong 先生からは合格点との評価であったが、授業時間が予定では 90 分のところ約 110 分要した点など、多数の要改善点があった。授業後、VNU キャンパスに戻り、派遣学生全員と引率教員で反省会を開催した。その後、各ユニットで授業準備を進めた。

3月4日（金）

VNU の副学長との意見交換会を設けていただいた。発言は主に引率教員が行ったが、学生の中でも英語教育専攻の大学院生は積極的に発言した。その後、実習校の Foreign Language Specialized High School にてユニット S とユニット X が 1 回目の授業を実施した。先方のスケジュール調整および事前準備が不十分で、学校到着が授業開始約 15 分前、その時点で準備されていない器具を大至急調達という慌しい中で、両ユニットとも総じて生徒に好評な授業を提供してくれた。授業後、VNU キャンパスに戻り、派遣学生全員と引率教員で反省会を開催した。なお、Foreign Language Specialized High School では、引率教員のみ副校長と面談し、意見交換を行った。

3月5日（土）

世界遺産の景勝地ハロン湾を訪問した。ハノイからバスで片道約 4 時間、現地ではクルーズ船で遊覧した。VNU の学生がツアーの申込み・当日の同伴をしてくれ、大変助けられた。

3月6日（日）

ハノイの旧市街およびその周辺の主要観光スポットを散策した。この日も VNU の学生が同伴してくれ、大変助けられるとともに、双方の学生が交流を深めるよい機会となったように見受けられた。

3月7日（月）

各ユニットで 2 回目の授業の準備を進めた。実習校 1 校（Le Quy Don Secondary School）を訪問し、授業で使用する設備・器具等の確認を行った。

3月8日（火）

ユニット S と T が Le Quy Don Secondary School にて 2 回目の授業を実施した。両ユニットとも 1 回目の反省点をふまえた授業を実施し、総じて生徒に好評であった。なお、Le Quy Don Secondary School では、引率教員のみ校長と面談し、意見交換を行った。

3月9日（水）

ユニット X が The Olympia Schools にて 2 回目の授業を実施した。生徒からの好評に加えて、当校の先生からも授業の完成度の高さを賞賛いただいた。

The Olympia Schools では、校長が担当の海外文化についての授業に参加させていただき、日本文化について生徒および校長と質疑応答を行った。授業後、生徒や校長の質問・コメントの英語の内容をどの程度理解できたか派遣学生に尋ねたところ、最も発言していた英語教育専攻の大学院生はほぼ 100% のことだったが、中には 20% 程度という学生もいた。

3月10日（木）

学部長の Cuong 先生が、ベトナムの教育制度についての講義を約 90 分、我々のために行ってくださいました。授業後の質疑応答では、親しくなった Cuong 先生が相手ということもあってか、派遣学生は多数が積極的に発言した。

3月11日（金）

VNU の副学長と学部長 Cuong 先生臨席にて、派遣期間中の活動内容・成果・提言について各ユニットがプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションに引き続いての意見交換会では、主に引率教員が発言した。最後に、当初のプログラムにはなかった双方の学生による挨拶で、VNU 側は数名が堂々に行ったのに対して、派遣学生側で挨拶したのは英語教育専攻の大学院生 1 名のみで、他は躊躇してしまい、やや消化不良の幕引きとなった。

その後、送別の昼食会を設けていただき、一同大いに盛り上がった。

3月12日（土）

帰国。

【総括】

派遣学生は、総じて意欲的に授業準備・改善に取り組んだ。1回目の授業は、2月中旬の出発前時点で実施した模擬授業と比較して、その進歩は目を見張るものがあった。さらに2回目の授業は、1回目の反省点をふまえて一層改善された。そのクオリティーはVNUのCuong先生からも高評価をいただき、派遣学生の授業の準備過程・内容・実施方法等について論文にまとめて投稿したい旨の申し出をいただいた程であった。

派遣学生への今後の要望としては、議論や会議等の場でやや消極的だった姿勢を反省し、臆することなく英語で発言できるようになってほしい。

先方のサポート体制は、前年度同様、手厚かった。到着時の空港での出迎えに始まり、滞在中も要望を伝えると速やかに対応いただけた。初日と最終日の意見交換会に副学長に臨席いただける等、本プログラムを重要視している姿勢が感じられた。

体調面では、昨年度は病院搬送が3名出たが、今回はゼロであった。原因は、派遣学生個々の体調管理が適切だったことに加えて、宿泊先が昨年度は旧市街のホテルであったが、今年度はVNUキャンパス内のゲストハウスで、毎日の移動距離等、環境面のストレスが軽減された点も考えられる。



ユニットSの授業



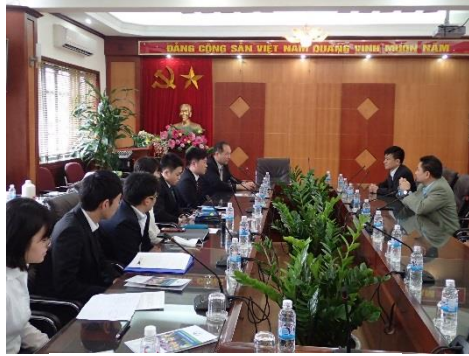
ユニットTの授業



ユニットXの授業



生徒との日本文化について質疑応答



VNU 副学長との意見交換会



最終日のプレゼンテーション



ベトナムの教育制度についての講義を聴講



ハロン湾にて